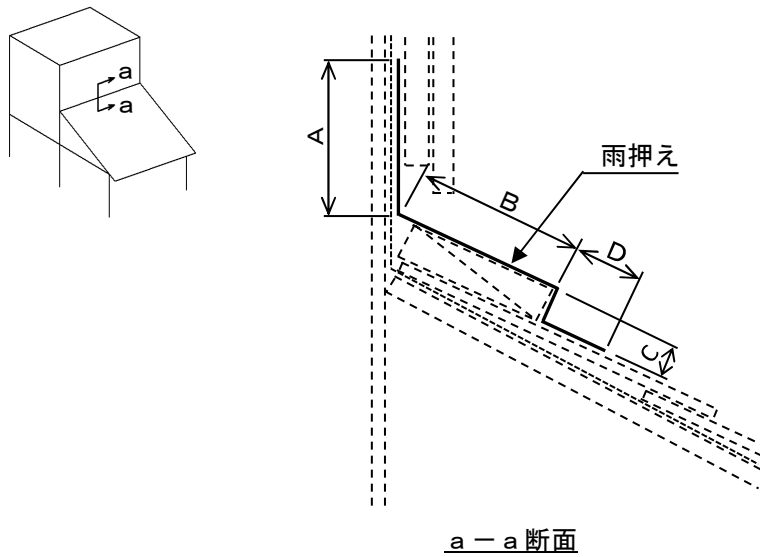


1. 対象部材
雨押え

略称：CjK 雨押え

2. 標準(共通)化の部位
標準(共通)化の部位を図1に示す。



- A：雨押え立ち上がり寸法
B：雨押え上面部の寸法
C：雨押え端部の立ち下がり寸法
D：雨押えツバの寸法
※雨押えの一般断面を示しており、特殊形状部分についてはこの限りでない。

図1－標準(共通)化の部位

3. 寸法・形状
図1の各部位の寸法を表1に示す。

表1－各部位の寸法

単位：mm

項目	寸法
A：雨押え立ち上がり寸法	$68 \leq A$
B：雨押え上面部の寸法	$98 \leq B \leq 102$
C：雨押え端部の立ち下がり寸法	$16 \leq C \leq 20$
D：雨押えツバの寸法	$22 \leq D$

4. 表示方法

部材・印刷物・電子媒体などに、長期使用対応部材であることを表示する。
または、“CjK”マークを表示する。

5. 特記事項

5.1 躯体側の具備すべき条件

屋根下地、下葺きは、住宅各社の屋根納まりにより大きく影響を受けるため、特に規定をしないが、雨押え部材を固定するための固定代を確保すること。

5.2 対象の範囲

- ・本基準書は2.5寸以上の勾配屋根を対象としており、フラット屋根は対象外とする。
- ・材質については、特に規定しない。

5.3 運用上の注意点

- ・雨押え部材を交換する際は、雨押え部材と接続する部材との相互の互換性を考慮し部材の選定及び配置を行う事。
- ・交換に際しては、適切な防水処理及び固定を行うこと。

6. 解説

- ・躯体側の大幅な改修を伴わずに容易に、また、連続する雨押え部材との相互の互換性を考慮して、交換が可能となるように、部材の寸法を定めた。
- ・雨押え部材は一般的な屋根勾配である2.5寸以上を対象とし、雨押え部材として一般的である寸法を基準値として採用した。
- ・連続する雨押え部材との接続部は、突き当て方式、ラップ方式などの方法があり、様々な接続方式に対応できるよう、寸法を設定した。

7. 共通事項

7.1 寸法について

寸法は基準値を示し、公差・許容差を表すものではない。

7.2 交換について

交換については、専門知識を有する者が行うことを推奨する。

注記) 専門知識を有する者とは：専門的知識、技術、経験を有する者である。

8. 改訂履歴

8.1 2024年3月21日改訂

標準寸法を追加することなく急勾配屋根でも対応できることが判明したため、5.2対象の範囲で設定していた屋根勾配の上限を削除した。